

# 性的マイノリティの子ども達が 学校の中で抱える困難、課題（高校）

表の左側は、大阪市内の学校に通学していたLGBT当事者の声です

## ● どんな高校生活だった？

- 同性愛にはポルノのイメージしかなく、ずっと自分のセクシュアリティに混乱していた
- 本当の自分がだせず、素の自分でいられなかった
- 同性の先輩を好きになったが、悪いことをしている気持ちだった
- 自分の存在を恨んだり、困惑していた
- クラスメイトの「おれは男好きちゃうから」という言葉がズンと響いた

## 💡 対応のヒント

高校に入ると、自分の性自認や性的指向がはっきりしてくる生徒も多くいます。将来について考える授業も多くなる中で、性的マイノリティの生徒にはロールモデルがありません。どうやって生きていけばいいのか悩みながら高校生活を過ごしています。悩み始めた時に誰かに相談できるように、当該生徒だけではなく、すべての生徒に向けてLGBTの相談窓口や、自助グループなどを紹介しましょう。

## ● 先生からの対応や、授業、部活などで困った、嫌だったことは？

- 異性愛者以外の方が生徒にいることは全く前提とされていなかった
- 家庭科で女子がクッキーを作り男子にプレゼントをするイベントがあり苦痛だった
- LGBTのことを先生たちが知っているとは全く思えなかった

## 💡 対応のヒント

「社会」の授業で同性婚について取り上げる、「英語」でカミングアウトしているLGBTの歌手の歌を取り上げるなど、できることを見つけてみましょう。掲示物、学級通信、朝礼、始業式などでLGBTについて触れるのも一つです。

- カミングアウトしたら、「私もそうやったよ〜」と、適当に共感されたのがすごく嫌だった

カミングアウトはとても勇気のいる行為です。近いセクシュアリティでも困っていることは生徒の環境によって異なります。話してくれたことをまずは受け止め、なぜ勇気のいるカミングアウトを自分にしてくれたのかを考えながら対応しましょう。

- 性的ないじめを受けた

いじめを受けても、その理由を言うことがカミングアウトになってしまうために、誰にも相談できていない場合があります。普段からLGBTについての理解を示すことで、相談してもらいやすくなります。また、生徒だけでなく、保護者にもLGBTの理解を広めることで、支援を受けやすくなります。

## ● 先生からの対応、授業、部活などでよかった、助かったことは？

- 担任の先生のおかげでズボンで学校に通わせてもらうことができた
- 校則でタイツを強制されたが、先生が代替案を提案してくれた助かった
- 制服がない学校を選んで入学したので、安心して学校に行くことができるようになった
- 男女でわけて話をしない先生は信頼できると感じた
- 学問の面白さをいろんな先生に教えてもらうことが生きる希望になった
- 先生に打ち明けたら「先生のまわりにもいる」と言われて救われた
- 先生が家に来て見守ってくれていた
- カウンセリングに行くことができた
- 先生が思春期の一時の気の迷いだと受け取らずに真剣に聞いてくれて救われた
- 英語の先生が「誰かを好きになること自体がすばらしく、同性同士でも同じだ」と授業で言っていて、自分のことを肯定できた

## 📖 おすすめ図書

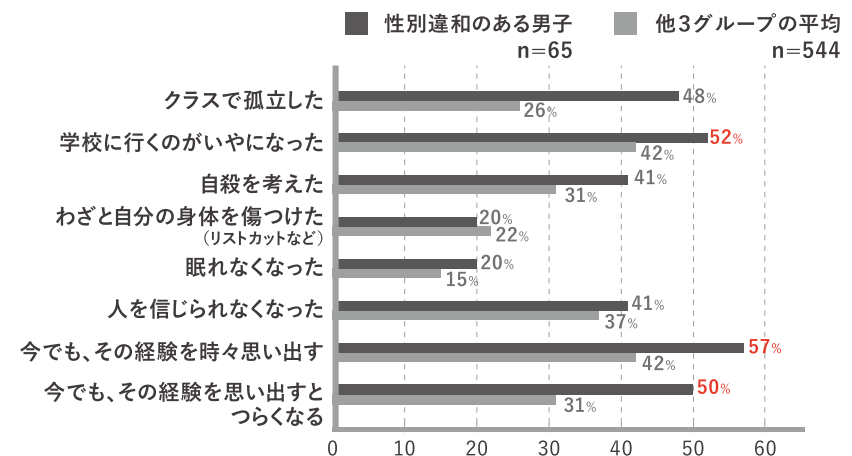
変えてゆく勇気ー  
「性同一性障害」の私から  
上川あや（著）

職場におけるLGBT入門  
虹色ダイバーシティ（著）

LGBTってなんだろう？  
からだの性・こころの性・好きになる性  
薬師実芳、笹原千奈未、古堂達也、小川奈津己（著）

カミングアウト・レターズー  
子どもと親、生徒と教師の往復書簡  
RYOJI、砂川秀樹（著）

## 🔍 研究調査 | いじめや暴力を受けたことによる影響（複数回答可）



LGBTの学校生活に関する実態調査 (2013) <http://www.endomameta.com/schoolreport.pdf>